

TAGAMI KOUMINKAN DAYORI

地域づくり・人づくり・町づくり

豊かな自然に囲まれて

穏やかな清流「浅の川」と、緑豊かな「角間」の里山に囲まれて。

田上本町
田上本町第2
朝霧台
田上町
田上1丁目
田上2丁目

田上新町
田上公町
田上さくら並木
田上の里

太陽が丘・ひまわり
田上新町
田上公町
田上さくら並木
田上の里

あおぞら
そよかぜ
ゆうひみ

上若松町
若松町
若松町兼六台
若松町東
若松町第3
若松町1丁目
若松町2丁目

田上町
若松町
旭町

若谷町
下中島
もりの里さくら並木

旭町・上
・中
・下

角間新町

たがみ 公民館だより

臨時号

令和4年6月30日

編集・発刊 田上公民館広報視聴覚部 <https://tagamicc.jp/>

つどう まなぶ むすぶ

田上公民館 館長
坂根 功一



このたび新たに田上公民館館長となりました坂根功一と申します。長年務められた関戸館長の後を継ぐことになりました。どうぞよろしくお願いします。

さて、この地域の変化には目を見張るものがあります。昔兼六中学校で学んでいた頃、ふと窓から目をやれば、遠く浅川郵便局前のたて道（とうとう呼んでいたように思います）を走るポンネット型のバスが土煙をあげて走っていくのが見えました。いまでは山側環状線ができ、葡萄畠も田んぼも見えません。視界をさえぎる大きなビルが建ち並び、あの頃の面影はありません。

そんな変化に伴う利点もあれば、逆に課題もあります。特に、「持続可能なよりよい世界」を作っていくという課題があります。

そこで、館長としては、公民館という社会教育の機関の役割を考えたとき、その原点に帰り「つどう まなぶ むすぶ」という基本的な考え方を忘れずにこの先取り組んでいきたいと考えています。

「つどう」みんなが集まり、やって来て、語り合い交流する。

「まなぶ」みんなで学び、知り、感心し、新しい発見をする。

「むすぶ」みんなが知り合いになり、新しい和と輪ができる。

そんな田上公民館を目指したいと思っています。

今後ともご協力とご理解をよろしくお願いします。

長い間ご支援いただき ありがとうございました



前館長

関戸 正彦

本年4月をもって公民館館長を退任いたしました関戸です。平成20年(2008)4月、20年にわたつて館長を務められました中川さんからバトンタッチを受け、自分なりに14年間、館長としての役割を果たしてきたつもりです。活動については、全面的な継承とはなりませんでしたが、三大事業と両学級活動、国際交流等は工夫も取り入れて継続してきました。

さらに、金沢市公民館連合会会長を10年と県公民館連合会会長を8年務めてこられたのも、役員の皆さんと地域のご理解とご支援の賜物であり、お礼申し上げます。

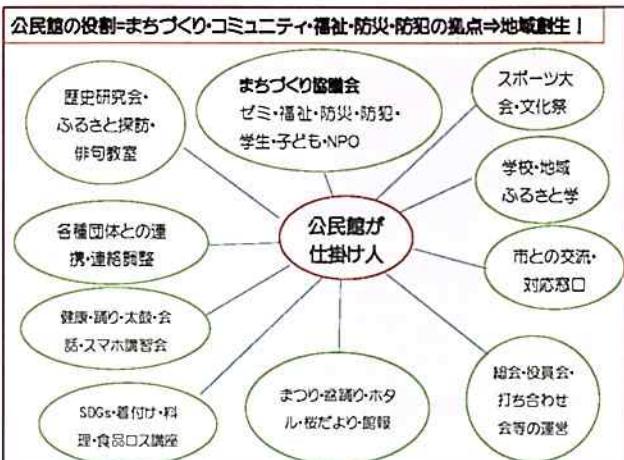
また、これまでの活動を見直し、「まち」・「ひと」づくりに取り組み、いくつかの事業は今も継続されていますが、肝心のひとづくりは大きな課題として残りました。

また、公民館の役割と仕掛け人として表のような取り組みにも努力してきました。

しかしながら、人づくりを含め反省も多々あり、今後は、地域の課題は何か、公民館は何をなすべきかなどを論議し、地域課題や現状分析から新たな地域創生のためのまちづくり・ひとづくりに取り組んでいただくようお願いいたします。私の願いは、

- ①誰もが、ちょっと立ち寄ってみたくなる、魅力ある公民館
- ②自己向上の願いが叶う、学びを大切にする 公民館
- ③人づくり・地域づくりに貢献できる、リーダーが育つ公民館
- ④人の温かさと心配りがにじみ、地域の絆を実感できる公民館

の4点であり、つどい・まなび・むすびあうから地域課題解決のための行動と事業展開をお願いして、退任にあたっての挨拶とさせていただきます。ありがとうございました！



田上新聞

2022年4月17日の「北國新聞」に見開き2ページで田上地区を紹介する「田上新聞」という特集記事が掲載されました。

そこには「戸室石引道の調査」、「道しるべに案内看板設置(田上公民館ふるさと歴史研究会)」、「子ども輝くまち目指す(太陽が丘)」「ふるさと親子交流の場に(若松町まうまうのいえ)」、「コロナ下でも音磨き(田上本町たいこ俱楽部)」、「『スマート農業』設備を増設(俵ファーム)」の8つの記事が掲載されていました。

3~4ページでは北國新聞社のご厚意により、その中から「戸室石引道の調査」と「道しるべに案内看板設置」の記事をご紹介します。

戸室山麓→金沢城 石垣用の石を運搬 「石引道」継承の道をつなぐ

藩政期、戸室山麓から金沢城へ石垣用の戸室石を運んだ「戸室石引道」の発信を、地域住民が進めている。案内板などが設けられていないことから若い世代を中心に存在を知らない人が増えており、有志が10年ほど前から調査やイベントを行ってきた。道は途切れ途切れになっているが、石切り場跡などには往事をしのばせる風景が残り、住民は「金沢の大切な歴史の一つ」と価値を見詰め直している。



(かつて切り出された戸室石が斜面などに残る山林)

戸室石引道は、戸室山麓の石切丁場から浅野川を渡り、小立野台地を経て金沢城に至る約11キロの道のり。約400年前に金沢城の石垣として使うため戸室石の採石が始まって以降、掘り出した石を運搬するのに使われた。現在は道路整備や区画整理で道の一部が無くなっているが、石を加工する丁場があった場所には人の手で切った跡や刻印が刻まれた戸室石が並び、当時の活気を思わせる光景が広がっている。

道が通る地域のうち、小立野地区では毎年の「御山まつり」で当時の石運びが再現してきた。しかし丁場のあった戸室別所など、現田上小校下では祭礼等がなく、住民の間では次第に親しみが薄れてい るという。

そんな郷土の歴史を掘り起こそうと、田上公民館では住民有志が戸室石引道の調査を開始。市がまとめた資料などをもとに当時の道がどこを通っていたのか調べ、2012年に田上を含む城東地区公民館連合会で石引道をたどるウォーキングイベントを初開催した。その後「ふるさと歴史研究会」が発足し、現在は小学校での出前授業などに取り組んでいる。

研究に加わる田上公民館前館長関戸正彦さんは、これまで金沢では市街地にスポットが当たることが多かったとし、「郊外にも金沢にとって大事な歴史がある。今、残っている物をうまく活用していくことが必要だ」と力を込めた。

道しるべに案内看板設置

左は戸室 蓮如上人が建立 右は湯涌

田上公民館ふるさと歴史研究会は16日までに、室町時代に道案内の役割を果たしていたとされる田上本町4丁目近くの石碑近くに、周辺の歴史を紹介する案内看板を設置した。

住宅街にたたずむ石碑は高さ2メートルほどで、「右ゆわく道」「左ともろ(戸室)道」と記されている。建立された時期は分かっていないが、地元では蓮如上人が湯涌温泉と二俣への分かれ道を示すとして建てたと伝わる。

看板は地元住民が移住してきた若い世代に田上地区の歴史を伝えるために取り付けた。紹介文には「湯涌街道と二俣越え越中街道との重要な分かれ道」「藩政時代は『戸室石引道』の道しるべ」などと記した。

看板はQRコードも付け、スマートフォンのカメラをかざすと、インターネットで周辺の歴史や情報を閲覧できる。看板の根元は地元の戸室石で固定した。

昭和50年代に三つに折れたという石碑は、長らく民家の軒下に放置され、2009年の区画整理を機に元の場所で復元された。

研究会では今後も田上地区の史跡に案内看板を設置する予定にしている。



新たに設置した標柱を眺める住人

